

手足の不自由な子どもたち

はけみ

特集 生活の工夫 1

~障害児と共に生きる中での暮らし方の工夫~

令和8年度 / No.428

6/7

Jun. — Jul.



第44回（令和7年度）肢体不自由児・者の美術展入賞作品「僕」
石元 優陽

はげみ



特集 生活の工夫 1

～障害児者と共に生きる中での暮らし方の工夫～

目次 Contents

広場 ～さまざまな工夫によって日々の生活を楽しく、豊かに～ … 河井 文 … 2

私たちの生活の工夫

Sec.1 応援団を増やしながら育てる …… 戸田 真以子 … 4
～地域とつながり、支え合いながら育てるという選択～

Sec.2 医療的ケア児を育てながら仕事を続けるための工夫 …… 永田 祥子 … 10
～人工呼吸器装着のわが子と専門職と～

Sec.3 父親育児の工夫 …… 宇田川 伸一 … 16
～家庭と仕事と PTA、そして親父の愚痴少々～

Sec.4 生活の中の工夫 …… 久野 昌美 … 23
～息子との知恵比べの日々～

Sec.5 笑顔の輪を広げて地域と共に「生きる」20年の軌跡 …… 高橋 育恵 … 28

Sec.6 工夫でつながり、つながりが工夫を生む。地域で活力を持って生きよう! … 圓井 美貴子 … 36

コラム 私のオススメ! 生活の工夫 ～保護者からの一言アイデア～ …… 42

支援者からの生活の工夫

Sec.7 通所施設における「食べる」大切さと職員としての学び …… 福島 さち子 … 44

Sec.8 洋服を通して皆に笑顔を …… 芹澤 友紀 … 51

今号の表紙 …… 石元 優陽 … 58

広場

さまざまな工夫によって 日々の生活を楽しく、豊かに

編集委員 河井 文

「はげみ」では平成25年と27年に全国肢体不自由特別支援学校のPTAの方々や企業の方々にご協力いただいて、私にもできる生活の工夫」という特集を組みました。それから10年以上が経過し、社会の環境が変わっている中で、新たな視点で特集を組んではどうか？ということので、今回の特集を組むことになりました。

障害の有無に関わらず、誰でも生活していく中で何かしらの工夫をしています。道具の使い方、ものの配置、時間の使い方、手順の工夫など、日々考えながら頭や体を動かしています。ましてや肢体不自由のある子どもを育てている家族や、学校の先生、施設の職員、支援者などはより工夫を重ねていることでしょう。でも、自分一人だと新しい発想になりにくいですし、新しい器具ややり方も知る術が無かったりします。事例をたくさん紹介できれば何かに活用していただけるのではないかと考えました。また、社会の環境は大きく変わっており、ユニバーサルデザインの考え方も普及してきました。そのた

め、保護者や日々の生活を支える身近な人たちだけに限らず、企業や事業者の取り組みも紹介するべきではないかとの考えに至り、2号続けて特集を組むことになりました。

今号では保護者の工夫の数々、身近な方たちの工夫について紹介しています。

令和7年の全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会全国大会で「生活の工夫」について日本肢体不自由児協会がアンケートを実施したところ、多くの方にご回答いただきました。改めてご協力に感謝申し上げます。やはり、子どもの世話はもちろん、仕事・家事・地域やPTAの活動など1人で何役もこなさなければならぬ方たちなので、いろいろな工夫の事例を紹介していただきました。その中から複数の方に執筆していただいています。障害児の親も仕事を継続している方が多くなっている現在、とても参考になるのではないのでしょうか。また、卒業生の保護者の方々にも執筆いただいています。

工夫を重ね地域社会とのつながりを深めていくことは子どもたちの生活環境を広く豊かにしていきます。

毎日接している職員や地域の方たちの視点での工夫は、より安全に、より快適にという思いがあり、専門的な知識に裏付けられた工夫や技術は子どもたちの可能性を広げてくれます。いつもと同じことを同じ手順で行えば安全は確保されますが、工夫を重ねることで新しい発見や感動があるかもしれません。「もっとこうしたい」「もっと楽にしたい」「もっと楽しくやりたい」この思いが新たな工夫を生み出しています。

「必要は発明の母」は昔から言われていたことです。不便さ、不自由さ、使いにくさを改善する努力は新しいもの、技術を生み出してきました。子どもたちが使うものや介助するときに使うものにも新しいものがどんどん出てきています。私自身は、とりあえず使えるもので何とかする、というスタンスだったので、自分で工夫するというよりは、人から「こんながあるよ」と紹介されるとちよっと使ってみたり、購入したりしていました。洋服も、本人の好みというよりは、着せやすいものを選んでいました。ご自身で色々工夫されている方の話を伺ったり、見たりすると尊敬しかないです。でも、見たり聞いたりするだけでも自分の家庭でできることはありますし、みんなの困りごとが社会に広まれば新しい商品も出てくるかもしれません。「不便だ」「困った」だけで終わ

らせず、本人や家族、支援者の思いを周りに伝えていくことは、とても意義あることだと思います。今回の特集が新しい気づきに寄与できて、子どもたちや保護者や支援者の笑顔が増えていけば大変嬉しく思います。

